

第2章 高齢者を取り巻く現状と将来推計

第1節 総人口の推移と将来推計

第8期計画においては、第7期計画期間中の実人口を基に、団塊の世代が後期高齢者になる令和7（2025）年、全国的に高齢者人口がピークになるとされる令和22（2040）年を見据えて、推計を行う。

推計方法としては、第7期計画と同様にコーホート法を用いる。

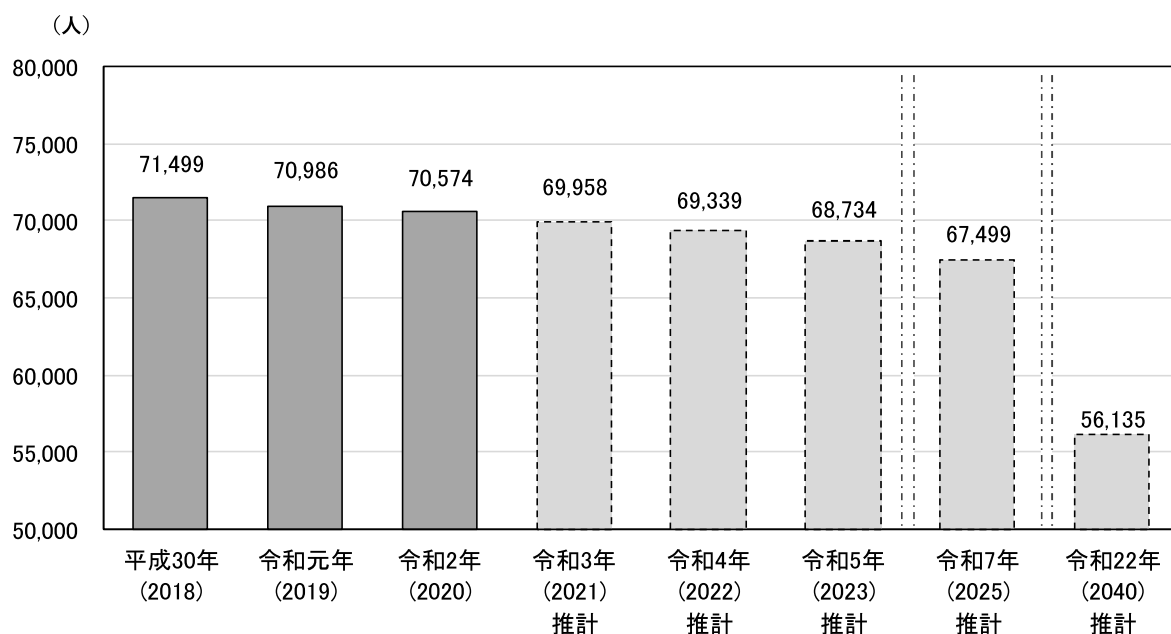
また、人口推計に当たっては、通常は国勢調査人口を使用するところであるが、国際医療福祉大学の学生や黒羽刑務所の収監者等を勘案する必要があることから、本計画においては「住民基本台帳人口（外国人含む）」を採用する。

【総人口の実績と推計】

（単位：人）

項目	第7期(実績)			第8期(推計)			(推計)	
	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和7年 (2025)	令和22年 (2040)
総人口	71,499	70,986	70,574	69,958	69,339	68,734	67,499	56,135

資料：住民基本台帳 各年10月1日現在



第2節 高齢者人口

1. 高齢者人口の推移

第7期の計画初年度、平成30（2018）年の本市の高齢者人口は20,319人で、総人口71,499人に占める割合（高齢化率）は28.4%であった。更に、2年後の令和2（2020）年の高齢者は686人増加して21,005人、総人口は925人減少して70,574人であり、高齢化率は29.8%となっている。

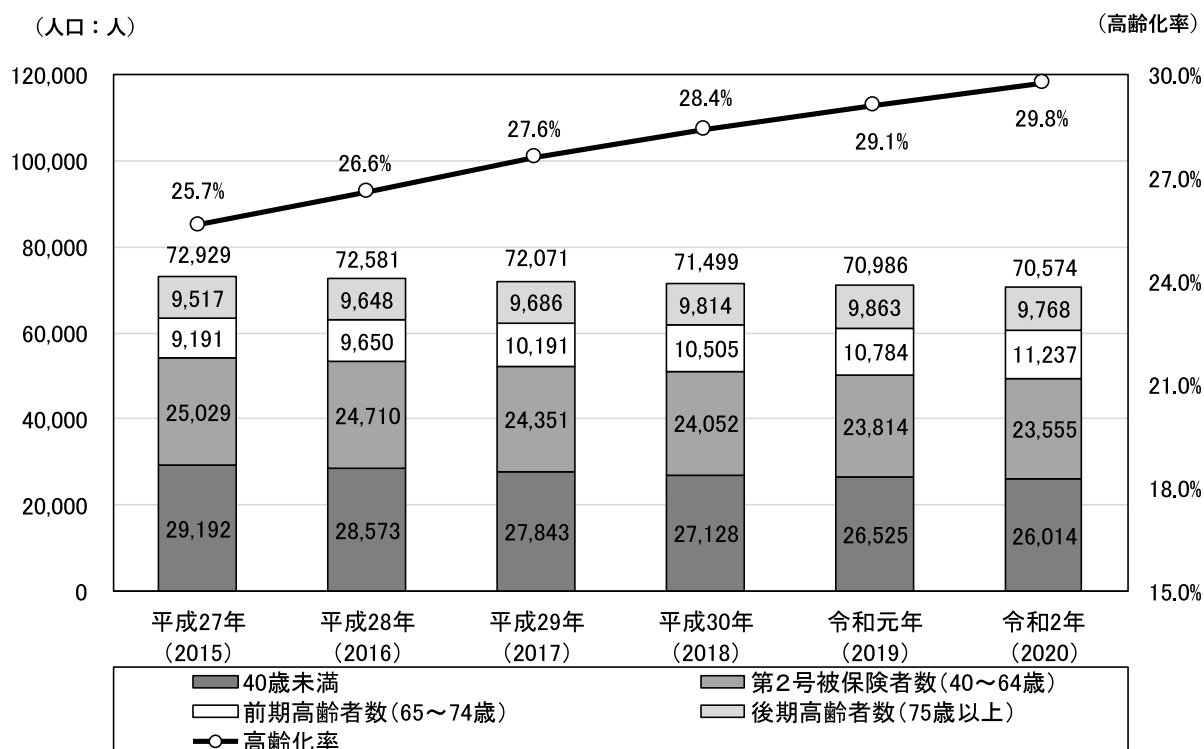
【高齢者人口と高齢化率の実績】

（単位：人）

項目	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)
総人口	72,929	72,581	72,071	71,499	70,986	70,574
高齢者人口	18,708	19,298	19,877	20,319	20,647	21,005
高齢化率	25.7%	26.6%	27.6%	28.4%	29.1%	29.8%

資料：住民基本台帳 各年10月1日現在

【総人口年代別内訳と高齢化率の推移】



2. 高齢者人口の将来推計

高齢者人口を推計するに当たっては、5歳ごとの年齢階層による推計を行った。

65～74歳までを「前期高齢者」、75歳以上を「後期高齢者」に分類すると、前期高齢者は減少傾向に、後期高齢者は増加傾向にあり、令和5（2023）年には後期高齢者が前期高齢者の総人口に占める割合を上回ることが推定される。

また、人口ピラミッドで令和5（2023）年の推計人口をみると、男女ともに70歳から74歳までの人口が多くなっている。新たな高齢者像に対応できるシステムを構築するとともに、令和7（2025）年以降に団塊の世代が後期高齢者へ到達することも含めた体制整備が引き続き課題となる。

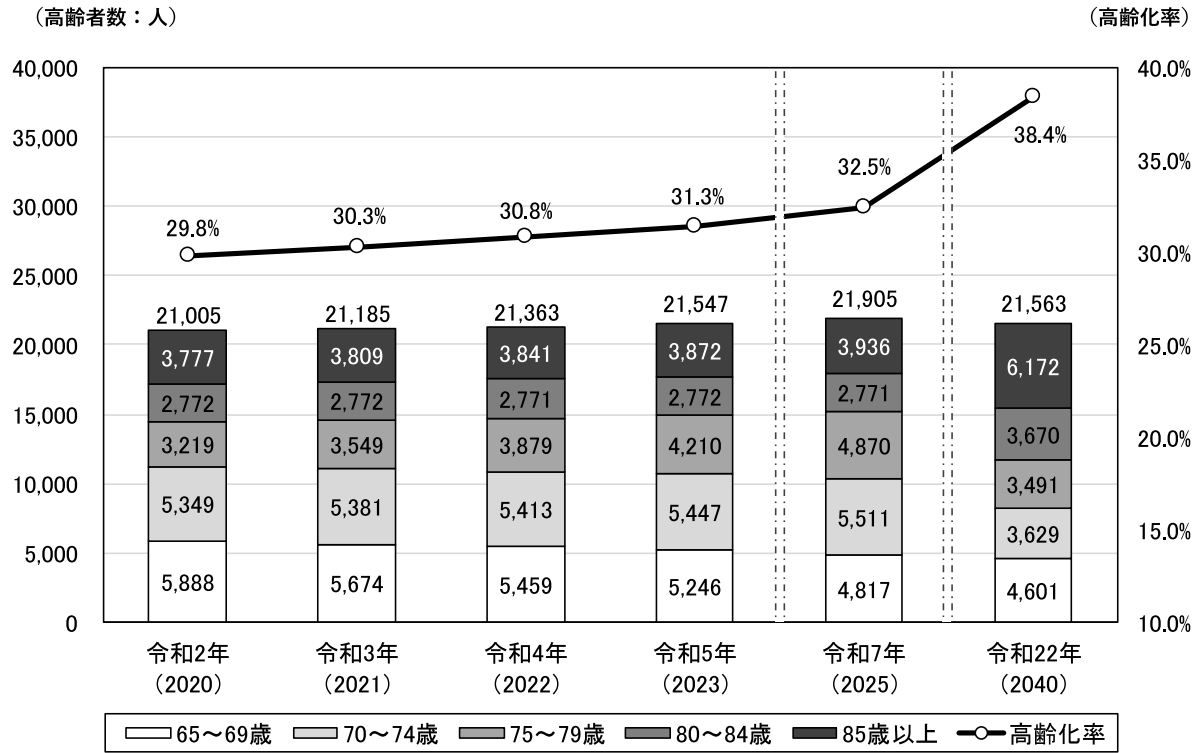
【年代別高齢者人口の実績と推計】

（単位：人）

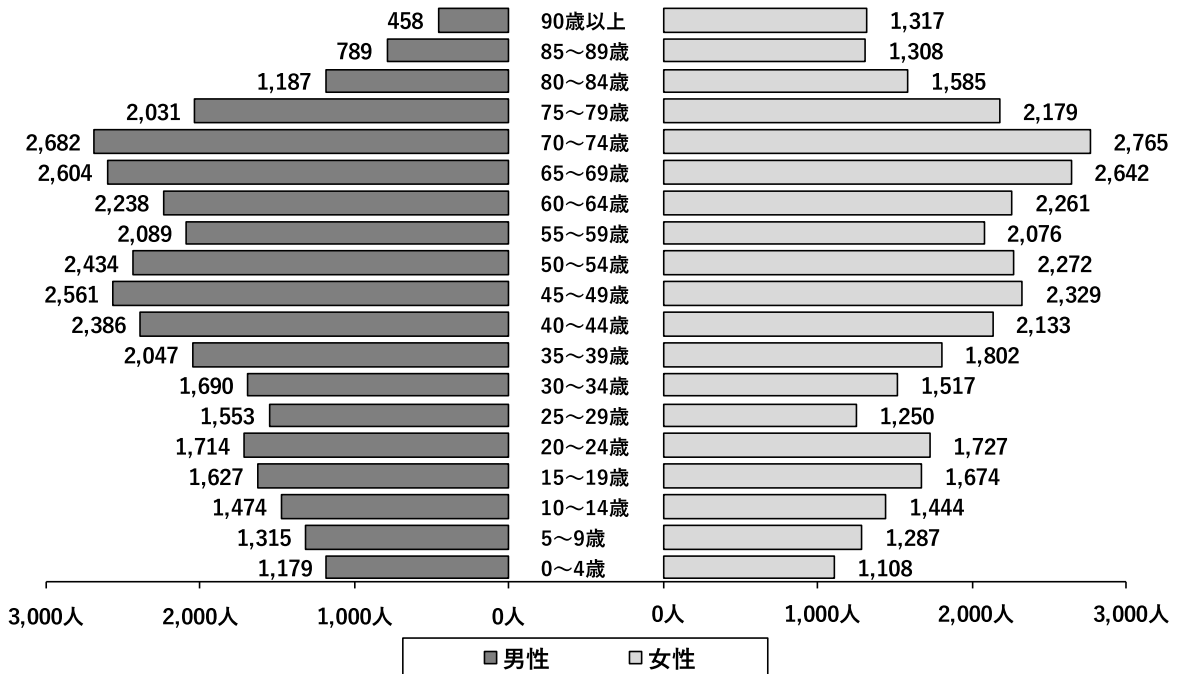
項目		令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和7年 (2025)	令和22年 (2040)
総人口		70,574	69,958	69,339	68,734	67,499	56,135
高齢者人口合計		21,005	21,185	21,363	21,547	21,905	21,563
前期 高齢者	65～69歳	5,888	5,674	5,459	5,246	4,817	4,601
	70～74歳	5,349	5,381	5,413	5,447	5,511	3,629
	前期高齢者計	11,237	11,055	10,872	10,693	10,328	8,230
	総人口に占める割合	15.9%	15.8%	15.7%	15.6%	15.3%	14.7%
後期 高齢者	75～79歳	3,219	3,549	3,879	4,210	4,870	3,491
	80～84歳	2,772	2,772	2,771	2,772	2,771	3,670
	85歳以上	3,777	3,809	3,841	3,872	3,936	6,172
	後期高齢者計	9,768	10,130	10,491	10,854	11,577	13,333
	総人口に占める割合	13.8%	14.5%	15.1%	15.8%	17.2%	23.8%
高齢化率		29.8%	30.3%	30.8%	31.3%	32.5%	38.4%

※推計値は令和2年10月1日現在の住民基本台帳の人口を基に算出

【高齢者人口と高齢化率の推移】



【人口ピラミッド（令和5（2023）年推計値）】



第3節 要介護認定者の状況

1. 要介護認定者の推移

平成18（2006）年より、軽度者（要支援1・2、要介護1）の大幅な増加に対応するため、介護予防を重視した体制を構築し、要介護状態になることをできる限り防ぐ「介護予防事業」、また要介護状態であっても、状態がそれ以上に悪化しないようにする「予防給付」について重点的に取り組んできた。

第7期計画期間においては、認定者数は横ばい状態だが、認定率（対高齢者割合）は減少している。

また、全ての年で要介護認定者数・認定率の実績が推計を下回る結果となった。

【要介護認定者の実績】

（単位：人）

区 分	平成 29 年 (2017)	平成 30 年 (2018)		令和元年 (2019)		令和2年 (2020)	
	実績	推計	実績	推計	実績	推計	実績
要支援1	433	432	405	443	406	451	427
要支援2	557	570	571	582	568	597	519
小 計	990	1,002	976	1,025	974	1,048	946
要介護1	691	692	675	717	708	732	758
要介護2	647	651	712	660	728	666	692
要介護3	514	526	497	533	470	545	503
要介護4	534	548	529	555	514	564	506
要介護5	339	345	341	351	326	359	329
小 計	2,725	2,762	2,754	2,816	2,746	2,866	2,788
合 計	3,715	3,764	3,730	3,841	3,720	3,914	3,734
認定率	18.7%	18.6%	18.4%	18.7%	18.0%	18.7%	17.8%

資料：介護保険事業状況報告 各年9月末日現在

2. 要介護認定者の年齢別内訳

下表のとおり、要介護認定者3,734人のうち、後期高齢者が87.8%で大部分を占めている。また、前期高齢者の3.4%、後期高齢者の33.6%が要介護認定を受けており、後期高齢者の認定率が前期高齢者の認定率に比べ大幅に高いことが分かる。

【要介護認定者の年齢別内訳】

(単位：人)

項目	人口(A)	要介護認定者			認定率 (B/A)
		男	女	計(B)	
第2号被保険者 (65歳未満の要介護認定者)	—	39	30	69	—
前期高齢者 (65歳から74歳まで)	11,237	201	185	386	3.4%
後期高齢者 (75歳以上)	9,768	866	2,413	3,279	33.6%
合計	21,005	1,106	2,628	3,734	17.8%

資料：介護保険事業状況報告 令和2（2020）年9月末日現在

3. 要介護認定者（新規申請者）の状況

（1）平均年齢

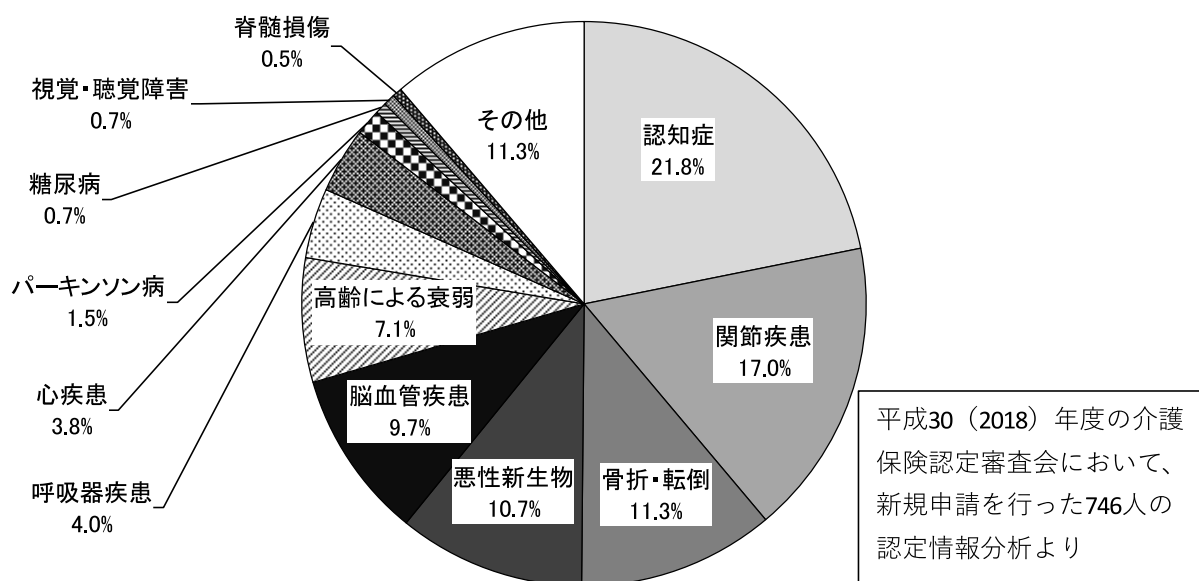
介護予防事業がスタートした平成18（2006）年度当初、第2号被保険者を除いた65歳以上の新規申請者の平均年齢は78.9歳であった。その後、平成23（2011）年度は81.5歳と上昇したが、平成26（2014）年度は81.8歳、平成28（2016）年度は81.9歳、令和元（2019）年度は81.7歳となり横ばいの状態が続いている。

（2）介護が必要になった主な原因

平成30（2018）年度の新規申請者（第2号被保険者除く）746人の認定情報を分析した結果、1位が認知症、2位が関節疾患、3位が骨折・転倒であった。

更に、要介護度別の分析の結果、要支援1・2では1位が関節疾患、2位が高齢による衰弱、要介護1から3では1位が認知症、2位が骨折・転倒、要介護4では1位が悪性新生物、2位が脳血管疾患、要介護5では1位が脳血管疾患、2位が悪性新生物となっており、要介護度によって原因が異なることが確認できた。

【介護が必要になった主な原因】



【要介護度別にみた介護が必要になった原因（上位3位）】

	第1位		第2位		第3位	
要支援1	関節疾患	30.1%	高齡による衰弱	18.3%	認知症	11.1%
要支援2	関節疾患	37.2%	高齡による衰弱	12.4%	骨折・転倒	12.4%
要支援者計	関節疾患	33.1%	高齡による衰弱	15.8%	認知症	9.0%
要介護1	認知症	41.8%	骨折・転倒	12.9%	関節疾患	9.5%
要介護2	認知症	29.7%	骨折・転倒	17.8%	悪性新生物	10.2%
要介護3	認知症	21.7%	骨折・転倒	17.4%	悪性新生物	15.2%
要介護4	悪性新生物	25.8%	脳血管疾患	19.7%	認知症	13.6%
要介護5	脳血管疾患	24.5%	悪性新生物	22.4%	関節疾患	8.2%
要介護者計	認知症	29.0%	骨折・転倒	13.3%	悪性新生物	13.3%
総数	認知症	21.8%	関節疾患	17.0%	骨折・転倒	11.3%

※平成30（2018）年度新規申請者746人の分析（非該当は含まない）

4. 要介護認定者の将来推計

第8期計画期間中、令和7（2025）年及び令和22（2040）年における要介護認定者の推計については、国が示した地域包括ケア「見える化」システムを用いて算出した結果、下表のとおりとなった。

第7期計画期間中は高齢者人口の増加が前期高齢者に偏っていたため、全体の認定率は減少傾向だったが、令和3（2021）年度以降は後期高齢者人口が増加に転じるため、全体の認定率も増加傾向になると推計される。

【要介護認定者数の推計】

（単位：人）

区分	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和7年 (2025)	令和22年 (2040)
要支援1	426	429	457	475	573
要支援2	572	580	573	563	702
要介護1	787	784	793	841	1,069
要介護2	750	773	763	797	986
要介護3	504	517	556	564	729
要介護4	513	532	557	555	726
要介護5	322	343	348	362	456
認定者合計	3,874	3,958	4,047	4,157	5,241
認定率	18.3%	18.5%	18.8%	19.0%	24.3%

※各年10月1日現在

※認定率は高齢者人口の推計値を基に算出

【要介護認定者数と認定率の推移】

